

(脊椎外科)

1. 概 要

脊椎外科は平成17年4月1日より院内標榜科として新設された。現在、脊椎外科医は2名であり、整形外科スタッフの協力を得ながら診療を行っている。年間200件ほどの手術治療を行っているが、頸髄症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアが脊椎外科における3大疾患であり、手術例のほとんどを占める。稀な疾患においては、名古屋大学整形外科脊椎グループと連携をとりながら、できるだけ当院内で高いレベルでの治療が行えるよう対処している。脊椎疾患の治療には、保存的治療と手術的治療を病態に応じて選択し、的確に実施して行くことが重要である。保存的治療もさることながら、とりわけ手術的治療が必要な方に対する十分な治療の提供が当院の使命と考えている。当院での治療成績より得られた貴重な医学的知見について、脊椎外科の発展に寄与すべく国内外の学会および医学雑誌上での発表も行っている。

(吉原 永武)

スタッフ：吉原 永武（部長） 井上 太郎 富田 浩之（兼整形外科医員）

主な対象疾患：

腰椎椎間板ヘルニア 腰部脊柱管狭窄症 頸椎症性頸髄症 腰椎圧り症・分離症 頸椎椎間板ヘルニア 後縦靭帯骨化症・黄色靭帯骨化症・黄色靭帯石灰化症 リウマチ脊椎 透析脊椎 脊髄腫瘍・脊椎腫瘍 脊椎感染症 脊椎外傷 その他

手術症例：183例（2012年度）

頸椎椎弓形成術	33例
頸椎椎間孔拡大術	2例
頸椎前方除圧固定	4例
頸椎後方固定術	4例
胸椎除圧固定	3例
胸椎椎弓切除	6例
椎間板ヘルニア摘出	21例
椎弓切除（腰椎除圧術）	46例
脊椎固定術	19例
胸腰椎前方固定	6例
胸腰椎後方固定	7例
胸腰椎前後方同時固定	2例
脊椎・脊髄腫瘍	4例
脊椎外傷（上記重複あり）	25例
その他	17例

学会発表

<脊椎外科>

No.	演 題 名	発表者及び 共同研究者	学会・研究会名	発表年月日
1	初期の体幹ギプス固定は骨粗鬆症脊椎 圧迫骨折の 椎体圧潰の進行予防に有用 か？ ～コルセット治療との比較～	井 上 太 郎	第41回日本脊椎脊髄病学会	2012/4/19
2	胸腰椎移行部圧迫骨折に対してギプス固 定はコルセット固定に比し有用か？	井 上 太 郎	第14回日本骨粗鬆症学会骨ドック・健 診分科会	2012/9/28

研究会発表

<脊椎外科>

No.	演 題 名	発表者及び 共同研究者	学会・研究会名	発表年月日
1	頸椎椎弓形成術後に多髄節にわたる片側 上肢の麻痺を来たした症例	井 上 太 郎	第227回整形外科集談会東海地方会	2012/3/3
2	脊椎疾患における神経障害性疼痛（講 演）	吉 原 永 武	東三河ペインフォーラム	2012/9/15
3	頸椎椎弓形成術後に脊髄浮腫を来たし た2例	井 上 太 郎	第49回中部脊椎外科ワークショップ	2012/9/29
4	L5/S腰部外側神経根障害に対する外側 開窓術の治療経験	吉 原 永 武	第78回東海脊椎脊髄病研究会	2012/12/8
5	脊椎疾患におけるプレガバリンの効果	富 田 浩 之	第78回東海脊椎脊髄病研究会	2012/12/8

論文・著書

<脊椎外科>

No.	題 名	発表者及び 共同研究者	雑 誌 名
1	骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折に対する外固定治療 ギプス固定は椎体圧潰進行の予防に有用か？（原著論文）	井上 太 郎	Journal of Spine Research(1884-7137)3巻4号 Page640-643(2012.04)